

公共工事費の縮減や少子化に直面する昨今、学生の土木建設業への関心の低下、やりがいの見出し難さ、土木建設業へ就職した後の他業界に比べての離職率の高さなど、21世紀の日本、ひいては世界の繁栄のために必要不可欠な社会基盤整備に関する学問を習得し世の中に羽ばたく学生を取り巻く状況は、決して楽観視できない。一方、土木建設業への思いを学生に尋ねると、東日本大震災の影響も大いにあるだろうが、現在の日本に必要なのは「復興」、とりわけ安全な国土の再構築が急務でありそれらに携わっていききたい、との返事は決して少なくはない。

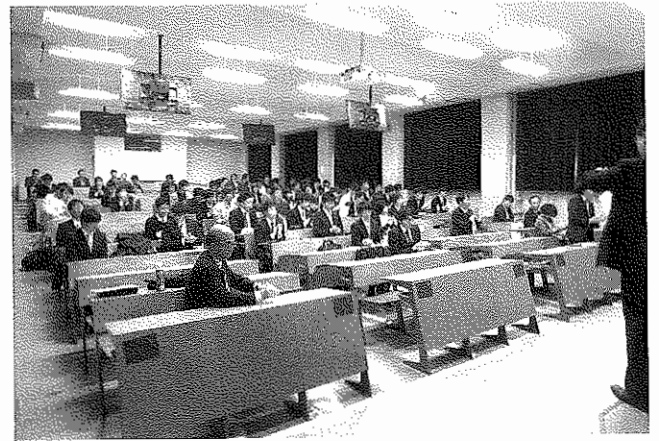
このような状況を鑑み、広報活性化委員会では、2006年から年1回のペースで「学生研修会」を開催しており今年で8回目を迎えた。学生研修会とは、就職活動を控える学部生、修士学生、高専生を対象に、道路や橋梁をはじめとした社会基盤設備の重要性・現状・今後の展望について、ゼネコン、建設コンサルタント、メーカー、鉄道・高速道路・電力、官公庁などで活躍する若手・中堅技術者の講演を柱の一つとしている。その講演では、各業界での実務内容、社会に対する建設系技術者としての役割やこれから社会へ羽ばたく学生へのメッセージも盛り込まれており、一般の就職説明会などでは知り得ることのできないホットな情報を学生に熱く感じて貰うことも期待している。さらに、九州内の学生相互のネットワークを育成して、土木建設業への関心を高めて貰い、将来の九州の若手技術者の連携も目的の一つと考えている。

今年は、一般社団法人九州地域づくり協会の支援を受けての開催であり、2013年11月16日(土)に福岡大学で開催した。第I部(12:30~16:00)では、木村環氏(福岡市)、中原晋氏((株)安部日鋼工業)、山手宏幸氏(九州旅客鉄道(株))、岩根陽子氏(第一復建(株))、今石尚氏(大成建設(株))、滝川尚樹氏(国土交通省)の第一線で活躍されている6名の講師による講演、第II部(17:00~19:00)では、講師と学生の立食形式による懇親会を催した。参加者数は、第I部は学生65名(九工大16、福岡大9、九州大26、熊本大5名、長崎大9)、第II部は学生42名、講師6名、運営委員他11名と賑わった。

これまでの学生研修会は、学生にとっても有意義であることは運営側の我々も認識しているところであるが、今年の学生研修会後のアンケートの結果の一部を紹介したい。KABSEを事前に知っている学生は全体の48%である。KABSEとの繋がりは、講演会が最も多く、論文集、講習会の順である。学生研修会への参加の動機は、「内容で判断」よりも「先生からの案内(半

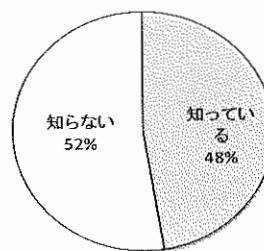
ば強制かも)」が圧倒的に多いが、学生研修会に参加するに値するかの問いには、「値した」が100%を占めるなど、学生の就職活動にける意気込みが強く伝わってくる結果であった。また、「〇〇氏の話しに感動した。」「学生の時にしておくべきこと、したことを教えてほしい。」「発注者・設計者・施工者のそれぞれの仕事を理解できてよかった。」などの自由意見もあった。

昨年からは数名の学生に運営に参画してもらい、講師の選任や内容など広報活性化委員会と一緒に企画を立案実行している。このような取り組みも含めた学生研修会に参加した学生たちが社会に巣立ち、九州を中心とした若い世代のネットワークが広がることを期待して、広報活性化委員会としては今後も学生研修会の活動を続けていこうと思う。最後に、会場を提供して頂いた福岡大学の渡辺浩先生・千田知弘先生、ご協力頂いた関係各位に深く感謝したい。

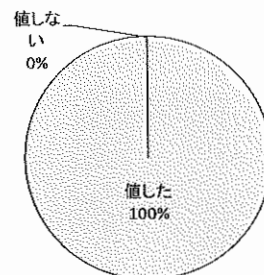


## アンケート結果

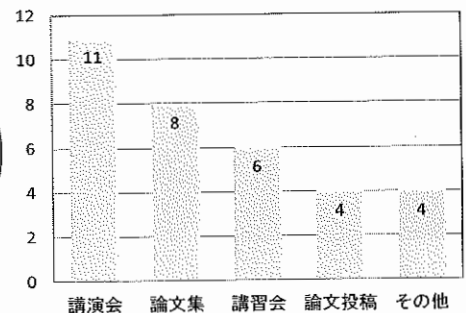
KABSEについて



参加するに値するか?



KABSEとの繋がり(回答者27名)



参加の動機(回答者61名、複数回答可)

